

森

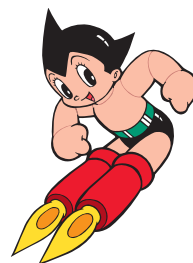
の通信

宮崎県総合博物館
発行日/平成15年7月1日発行/宮崎県総合博物館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4番4号 TEL(0985)24-2071
http://www.pref.miyazaki.jp/museum/ E-mail:kyhakubu@pref.miyazaki.jp FAX(0985)24-2199

特別展

OSAMUSHI WORLD EXHIBITION

手塚治虫のふしきな



虫眼鏡展

- 開催期間 2003年7月19日(土)～8月31日(日)
休館日 7/22・7/28・8/4・8/11・8/18・8/25
- 開館時間 午前9時～午後6時(入館は5時30分まで)
- 観覧料 大人500(400)円 高大生300(200)円
小中生200(100)円 *()内は20名以上の団体

かつて、子ども達は、野山で自然と触れ合い、様々なことを学んできました。しかし、開発や環境の悪化で森や林、野原などが少なくなるにつれて、子ども達が自然と対話する機会も減ってきています。

今回の展覧会では、手塚治虫の目を通して見た自然や昆虫の色彩美、フォルムの美しさ、自然・生命がもたらすいとなみの神秘性を感じとっていただくことで、好奇心や冒険心、創造することのおもしろさや生命の尊さを感じてもらうとともに、私たちの周りの自然について目を向けてもらう機会を提供したいと思います。

会場内には、手塚治虫のキャラクターや少年時代の日記や写真、昆虫のスケッチ画、巨大ふしぎ昆虫のオブジェ、直筆原稿などを展示するほか、アニメーション映画「オサムとムサシ」を上映します。

体験コーナーでは、パソコンでのアニメ画への着色やセル画の作成、昆虫のスケッチ、ぬり絵などが楽しめます。また、関連イベントとして声優教室、アニメーター教室、童画教室も開催します。夏のひとときを総合博物館でお過ごしください。



©TEZUKA PRODUCTIONS

声優教室
(各回定員40名)

【講師】
●緒方賢一 ●関宮くるみ
●水田わさび

7月26日(土)

●13:00～ ●15:00～

7月27日(日)

●10:00～発表会&トークショー

アニメーター教室
(各回定員30名)

【講師】
●竹内大三

8月2日(土)

●13:00～

8月3日(日)

●10:00～ ●13:00～

童画教室
(各回定員30名)

【講師】
●小林三男

8月9日(土)

●13:00～

8月10日(日)

●10:00～ ●13:00～

関連イベント参加お申し込み方法

参加希望の教室名・実施日・時間・参加者住所・氏名・電話番号・FAX番号・年齢を記入し、往復はがき・FAXまたはEメールで上記へお申し込みください。受付期間は、7月1日から各実施日の1週間前まで。応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

役目を終える

西都原資料館

さいとばる 西都原資料館は、昭和41(1966)年、西都原古墳群が全国第1号の「ふどき風土記の丘」に指定されたのを機に、西都原古墳群環境整備事業で建設され、考古資料展示室と民俗資料展示室をもった資料館として、昭和43(1968)年7月に開館しました。以来35年が経過し、県内外をはじめ遠くは海外から、特に歴史に興味を持っている方、遠足や修学旅行など多くの方々に利用していただき、累積入館者は230万人を越えています。開館7～9年目のピーク時には、年間利用者が10万人を上回ったこともありました。

そして、平成16年度に西都原考古博物館(仮称)として、大きく発展生まれかわることになりました。これまで長年にわたりご愛顧いただき誠にありがとうございました。

今回は、これまでの歴史を振り返り、西都原資料館の特集を組んでみました。

写真でたどる西都原資料館



開館当時の資料館の様子です。近くの高取山の頂上から撮影したもので、周囲の樹木がまだ小さいのがわかります。



昭和52(1977)年には皇太子同妃両殿下(当時)が来館されました。写真は、民俗資料を御覧になる様子です。



古墳時代の復元住居です。
どうきよう銅鏡に描かれた家屋を参考に開館時に資料館西側に建てられました。



昭和54(1979)年には昭和天皇が来館されました。当時の職員の説明を聞きながら、考古資料を御覧になっています。



開館した当時、修学旅行で熱心にメモを取りながらを見学する子どもたちです。多くの学校にきていただきました。



昭和60(1985)年に設置された、どきた土器田横穴墓のレプリカです。玄室内に三角形の模様や、馬や魚などの動物の絵が描かれています。

資料展示室紹介

考古資料展示室

西都原古墳群で大正年間に行われた発掘調査で出土した資料、西都原4号地下式横穴墓^{おうけつぼ}や西都市周辺の遺跡から出土した遺物により、旧石器時代から古代の人々のくらしや文化を紹介しています。

主な展示資料に国指定重要文化財の子持家形埴輪^{こもちいえがた はにわ}や船形埴輪^{ふながた はにわ}のレプリカをはじめ、銅鏡や短甲・馬具^{たんこう}などの鉄製品、縄文や弥生時代の土器などがあります。



馬 具



子持家形埴輪

民俗資料展示室



都万焼



運搬道具

西都市周辺で昭和30年代まで使われていた焼畑・狩猟用具を中心に、農耕、川漁、飲食、運搬に使われた道具を展示し、山と里のくらしや文化を紹介しています。

主な展示資料に、西都市で焼かれていた都万焼^{つ ま}などの陶磁器、焼畑用具のツク、川ガニを捕るためのガニウケ、荷物を運ぶシャリキダイなどの民俗資料があります。

こんなこともありました



資料館の建物は、周囲の古墳群の景観を配慮して、半地下式に造られています。つまり、目立たなくしてあるわけです。開館以来周囲の樹木も大きく育ち、緑が資料館を包み込んでいるので、お客さんには、なかなか分からないこともあるようです。「どこにあるか分からなかった。」とおしかりを受けることもありました。

西都原資料館から西都原考古博物館(仮称)へ バトンタッチします

現在、資料館東側に古墳^{ふきいし}の墓石を連想させる建物が完成間近の姿を現しています。今年9月で35年の歴史に幕を閉じる西都原資料館に代わって、来春オープンする県立西都原考古博物館(仮称)です。

考古博物館は、西都原古墳群全体を野外展示の「遺跡博物館」としてとらえ、常に新しい情報を紹介し、本県の考古学情報を広く県内外に発信していく博物館としてまもなく誕生します。楽しみにお待ちください。



建設中の考古博物館

問い合わせより

ナスの枝になった不思議な実

博物館に変わった実が持ち込まれました。話を聞くと、畑に植えていたナスの株に、写真のような実がなっていたということです。実はトマトのようにもありますが、平べったくてちょっと様子が違います。この実はヒラナスという植物の実です。ではなぜナスにヒラナスの実がなったのでしょうか。

じつは、このナスは接ぎ木がしてあったのです。台木に使われたのがヒラナス。そのヒラナスの枝も伸びてしまって、花を咲かせ、果実が実ったのでしょう。試しにヒラナスの実を切ってみました。すると、中はナスにそっくりで、においも一緒でした。夏のミステリーでした。



収蔵資料紹介

ユデオケ (重要有形民俗文化財 採集地:西米良村^{にしめら})

高さは、約3mもあります。かつて山村では、麻製の衣服^{あさ い ふく}が広く着用されていました。ユデオケは、絵の様に大釜^{おおがま}の中で蒸している麻の上にかぶせて使用しました。こうすることで麻の表面が柔らかくなり、簡単に表皮を剥がせます。また、このユデオケは、麻だけでなく、紙の原料^{こうぞ}の楮を蒸す時にも使われました。



お知らせ

開館時間を延長します

7月19日(土)～8月31日(日)は開館時間を1時間延長し、午後6時まで開館します。この機会に薄暮の展示観覧をお楽しみください。なお、入館は午後5時30分までです。

ホームページが新しくなりました

本館のホームページが新しくなりました。今まで掲載していた内容に加え、森の通信や展示室に設置してある解説シートがダウンロードできるようになりました。また、博物館に問い合わせのあった内容、博物館友の会のページも追加しました。ぜひアクセスしてください。

<http://www.pref.miyazaki/museum/>

